



フィールドマイニングとは？

「意識を少し変えるだけで気づくものがある」

● 経済学研究科 准教授
松村真宏 — Naohiro Matsumura E-mail: matumura@econ.osaka-u.ac.jp

阪大坂を一齐に駆け上がるイベントで福男・福娘を選ぶ「系びす男選び @阪大坂2008」が、1月10日に実施された。この石橋商店街との交流イベントを企画・運営しているのが松村研究室。松村真宏准教授の研究領域は、計算機を使ったデータマイニング、統計解析から、社会現象の分析とモデル化、コミュニケーション環境のデザインまで幅広い。新しい研究のキーワードとなるのが「フィールドマイニング」だ。

社会現象のモデル化を目指す

「フィールドマイニング」という言葉は、大量のデータを計算機で分析して法則や知識の発見を試みるデータマイニングになぞらえた松村准教授の造語である。フィールド（生活空間）に

ちよつとした変化を起こすことによつて、私たちの意識や行動がどのように変わるのか。人とモノと環境との関係を再構築し、フィールドの魅力を掘り起こすための方法論を追究する、今までにない実践的な研究分野が開かれようとしている。

「工学系出身で、データの分析を専門に研究してきました。電子掲示板やブログなど、オンラインのコミュニケーションを主な対象にしていたのですが、経済学研究科に来てからはオフラインのコミュニケーションに取り組んでいます。観察し、集計して終わりというのではなく、その背後にある因果関係や、人間の行為の中に潜んでいる共通性などをデータから導き出したい。社会現象をモデル化し、得られた知見を再利用できるところまでもつていきたいのです」

イベント企画からデータ分析まで

例えば、イベントの場を設定してコミュニケーションを観察し、どのような話が行われているかを記録する。イベントに参加する前後で発言内容がどう変わってきたのか、それまで気づかなかつたことにどれほど気づいたか。コミュニケーションの様子をとらえたビデオカメラのデータから数値データを起こしていく。話している時間や回数、話の内容も質問なのか返答なのか相づちなのか、感想や意見か、体験談か、話すときの目線や体の向きは……。何に注目して、どうデータ化する

るかが重要になる。

「フィールドマイニングでは、イベントなどによるコミュニケーションの環境デザインから、コンピュータサイエンスによるデータ処理まで全プロセスを設計します。社会学や心理学の知識も必要になりますが、一貫してやらな」と意味がないと思つていきます」

フィールドの魅力発見！

松村研究室の学生は、さまざまなフィールドマイニングを実践している。当麻俊介さん（大学院修士課程1年）は、「音風景によるまちイメージの喚起」をテーマに、多様な音風景を提示するイベントを行った。「普段は視覚で物事をとらえていることが多いのですが、耳を澄ましてみると、いろいろな音が聞こえてきます。身近な音を拾ってきて聴いてもらうと、まちへの関心が高まり、愛着がわくことが分かりました。自分自身、住んでいる地域の魅力に改めて気づきました」

市橋歩実さん（大学院修士課程2年）は、「らくがきマップによるまちイメージの共有」をテーマに、石橋商店街に設置したらく

がきマップへの書き込みから、コミュニケーションの内容を分析した。また、市橋さんは「系びす男選び」の実行委員長。「レースには阪大生ほか、住民の方々も合わせて53人も参加し、商店街の人たちと交流を深めることができたのがよかったです」

「意識を少し変えるだけで、いろいろなものが見えてくるし聞かえてくる」という松村先生の学生へのアドバイスは、「たとえ失敗しても、なぜ失敗したのかを分析すればそれが知見になる。どんどん行動してほしい」。



◀松村研究室でフィールドマイニングを実践している、当麻俊介さん(中央)と市橋歩実さん(右)